



「象山記念館 展示リスト」

2022年7月2日（土）～9月19日（月）

※展示の日程・内容は変更する場合があります。

象山記念館

象山記念館は、象山没後100周年にあたる昭和39年(1964)に記念祭が行われたことをきっかけに、象山の遺墨・遺品を一般公開する施設の建設が持ち上がり、有志による寄付で昭和40年に展示施設が完成した。その後昭和42年(1967)に長野市に寄贈され、現在にいたる。

佐久間象山 文化8年(1811)～元治元年(1864)

佐久間象山は松代藩の下士・佐久間国善の長男として松代町浦町に生まれた。八代藩主・真田幸貫に見いだされ、海外事情を研究。オランダ語を学び、西洋の新しい知識や技術と、東洋の朱子学とを合わせた「東洋道徳・西洋芸術」の考え方のもと、江戸で砲術の塾を開き、吉田松陰や勝海舟、坂本龍馬など、幕末から明治維新に活躍する人材を育てた。象山は詩文、漢文、琴、武術、蘭学、医学など多彩な才能を発揮した。

嘉永7年(1854)、弟子・吉田松陰の外国密航未遂事件に連座して松代に蟄居。その後、元治元年(1864)幕命により上洛。京都で公武一和を目指し活動する中、同年7月11日、京都三条木屋町で暗殺された。54歳。

展示資料一覧 旧館展示室

資料名	作者	年代	指定等	数量	所蔵他
1 真田幸貫肖像画		19世紀中ごろ		1幅	
2 佐久間象山肖像画写真		(元の絵は明治23年・1890)		1点	松代小学校
3 象山幼時の写本		文政元年(1818)頃力		1点	近山コレクション
4 月次(並)講釈恩賞目録		天保元年(1830)頃		1点	象山神社
5 参考 銀1匁玉		嘉永元年(1848)頃		1点	真田家
6 米利堅人物等画像		嘉永7年(安政元・1854)		1巻	
7 軍議役仰付書		嘉永7年(安政元・1854)		1点	象山神社
8 横浜警衛隊布列図		嘉永7年(安政元・1854)		1巻	
9 写真機模型(ダゲレオタイプ)				1点	
10 地震予知器		安政5年(1858)		1点	
11 電気治療機		文久2年(1862)		1点	
12 大砲の弾		江戸時代末期		1点	埴科縣神社
13 乳鉢				1点	
14 水盛器(測量用水準器)		弘化3年(1846)		1点	
15 三針時計				1点	
16 周礼 全				8冊	近山コレクション
17 ワーテルロー戦記				1点	近山コレクション
18 『要塞初問』 サハルト著		1828年		1点	近山コレクション
19 アルファベット散らし書き		天保14年(1843)以前力		1点	近山コレクション
20 象山遭難につき藩への届書		元治元年(1864)7月12日		1点	近山コレクション
21 真田幸教和歌短冊		元治元年(1864)7月頃力		1点	真田宝物館
22 象山遺愛の品(鞭とハエ追い)		19世紀		各1点	象山神社
23 象山遺愛の品(バックルと急須)		19世紀		各1点	象山神社・松代小学校

新館展示室（佐久間象山遺墨コレクション）

資料名	作者	年代	指定等	数量	所蔵他
24 大筆（佐久間象山所用）	佐久間象山	不明		1本	象山神社
25 桜賦（レブリカ）	佐久間象山	（万延元年・1860）		1幅	象山神社
26 水墨山水画（レブリカ）	佐久間象山	（安政4年・1857）		1幅	象山神社
27 七言絶句 春秋対幅	佐久間象山	1860年以降		対幅	坂本コレクション
28 七言絶句 曉揚鞭策	佐久間象山	文久2年（1862）		1幅	坂本コレクション
29 七言絶句 霧淞二首	佐久間象山			対幅	坂本コレクション
30 おもひをのふる歌	佐久間象山			1幅	坂本コレクション
31 桜賦	佐久間象山	万延元年（1860）		1幅	恩田家旧蔵
32 望岳賦	佐久間象山	天保12年（1841）		1幅	村上家旧蔵
33 臨・顔魯公墨帖「古栢行（こはくぎょう）」 対幅	佐久間象山			対幅	坂本コレクション
34 臨書「瘞鶴銘（えいかくめい）」	佐久間象山	天保8年（1837）		1帖	近山コレクション
35 臨書「顔真卿 争座（位）帖 石刷」 りんしょ がんしんけい そうざ（い）じょう いしずり	佐久間象山			1帖	近山コレクション
36 硯	佐久間象山所用			5面	近山コレクション
37 唐墨（蔵煙 書素功防古）	佐久間象山所用			1点	近山コレクション
38 佐久間象山印章	佐久間象山所用			5点	近山コレクション

佐久間象山遺墨コレクションについて

2017年5月19日、古美術蒐集家である坂本五郎氏より、明治時代の医師であり、佐久間象山研究家としても知られる宮本仲が収集した「佐久間象山遺墨コレクション」が一括寄贈されました。

坂本氏は、このコレクション蒐集について次のように述べられています。

私は、戦後、東洋古美術を中心にさまざまな美術品に出会った。其の長い道程の中、不図、信州の出自、宮本仲翁が終生かけたコレクション「佐久間象山の書」の一群を伝得する幸運に恵まれた。佐久間象山の偉大さは、十分心得ていた。同時に、これら遺墨が象山の人と成りを投影する貴重な存在であることを何より尊んだ。さらに、翁生前に手許を離れた遺墨に、一再ならず巡り会った。これまた、翁の遺志に想いを馳せ、逃すことなく、順次、収蔵に加えていた。これらを図版で掲出し、すべてに釈文を付した本にまとめておけば、今後の佐久間象山研究の基本文献になること必定、と。この様な思いを胸に秘めながら、このコレクションを大切に持ち続けた。

『新修 佐久間象山遺墨集』より

ここに、坂本氏のご芳志に添い、広くコレクションを公開するとともに、永く保存し、活用させていただきます。

真田信之松代入部400年記念特別展

「真田信之—10万石の礎を築いた男—」開催中

会 期：令和4年7月2日（土）～同年12月19日（月）

場 所：真田宝物館

入場料：一般800円 小中学生100円

|